

音域開発フローチャート

~王道ルートと特殊ルート~

王道ルートと特殊ルート

ミックスボイス・ベルティングを習得するためのフローチャートを解説します。

ここでは感覚的にはわかっている、**どうしても**

公の場で暴露できない情報を公開していきます。

結論から言うと僕はミックスに辿り着くのに、大まかには

王道ルート

特殊ルート

(と勝手に呼んでいる)

の2つがあると”経験上”理解しています。

これは、今まで3000人を超える生徒さんを指導してきた、

僕が肌で感じとったものです。

ぜひ先入観を捨てて、しっかりと理解してください。

王道パターン：小声→大声 = ベルティング・ミックス

これはよくある理想論です。

小さい声で声量を抑えながら、低音から高音まで繋いでいきましょうね。

そして、その後にそこからパワー感を出していきましょうね！

という考え方です。

いや、もちろん言っていることはごもっともです。安全だし、これでできれば言うことありません。

正し、このやり方がハマらない楽器を持っている方がかなり存在するのです。

どんなに小さな声で低音から高音まで繋ごうと思っても、
どうも感覚が分からない方ですね。

その場合、次に紹介する特殊系を使うわけです。

特殊パターン：大声 → 小声 → 大声 = ベルティング・ミックス

特殊パターンは、小声でのミックス導入に見切りをつけ、

いきなり「上手く張りあげる」ことで

裏声にせず換声点を乗り越える感覚を掴むのです。

率直に言えば、ミックスから入るのではなくて、

いきなりベルティングから入るということです。

正直な話、小さな声で練習していつまでたってもミックスの感覚を掴めないよりも、

多少力んでも汚い声でもいいからミックスやベルティングに

ゴリゴリねじ込んでしまってから

後から力みを取る方が明らかに簡単なことも多いんですよ。

(ただ、多くの方は分離や強化をせずにいきなりねじ込み

作業に入るから混合します。

僕らはその心配はありませんよね)

正直、この情報はこの講座で言うかどうか本当に迷いました。

と言うのも、本当に話し声で張り上げてしまって喉を壊してしまっては元も子もないからです。

ですから、この方法を試す場合、下の条件は確実に守ってください。

条件① E4まではチェストで問題なく発声できるようにしておく

特殊系でいく場合、最低限E4までは楽に地声を鳴らせるようになっておいてください。

欲を言えば、ちょっと頑張ればG4くらいまでは地声で発声できればいいですが、

それは難易度が高いので、最低E4～F4ですね。

条件② どんな形であれ、すでにB4以上を

裏声でない声で発声できる場合は対象外

クオリティはさておき、B4以上をなんとか発声できてしまう方は、

すでに特殊ルート最初の段階は通り過ぎているので、

やる必要がないです。

と言うよりも、やるとさらに悪化することが多いです。

王道系に切り替えて頑張りましょう。

条件③ 張り上げても喉が痛くならない

これは、ちょっとハードルが高いですが、

高音を張り上げても、喉が全く痛くならない

方は、特殊ルートで安全に高音開発できる可能性が非常に高いです。

条件④ 王道系をやりつつ特殊系をやる

王道系がうまくいかないからと言って、

王道系をやめないでください。

特殊系と王道系を常に同じくらいの割合でトレーニングしていきましょう。

まとめ

ミックスやベルティングの練習方法を語る時に、

ほとんどが小声から入って、徐々に大きな声にしていく

といったやり方になることがほとんどだと思います、。

しかし、実際のところ

張りが突破口になることもある

ということも、ぜひ知っておいていただきたいと思います。

